



— 第73号 —
 〒214-8565
 川崎市多摩区西生田1-1-1
 日本女子大学教育学科の会
 電話 044 (952) 6870 (代)
 FAX 044 (952) 6889
 ホームページ
<http://jwu-gakuen.net/>
 メールアドレス
info@jwu-gakuen.net

第28回 ひめのさい
日女祭
 10月20日(土) 21日(日)
 午前10時〜午後5時
 *入場は両日共に午後3時30分まで

ホームカミングデイ・講演会のお知らせ

教育学科の会では、毎年、日女祭にあわせてホームカミングデイを開催し、講演会やシンポジウムを行っています。今年も、二つの講演会を企画致しました。一つは、筑波大学元副学長で、現在は地名研究家として多数のテレビ出演や著書刊行をなさっている谷川彰英氏による「遊びの中の教育的意義」に関する講演です。もう一つは、半世紀以上にわたって世界中の人たちに「夢・遊び・感動」を届け続けている株式会社バンダイの岩村剛氏に、ユニバーサルデザインを体感し、企業CSRを学ぶ講演をいただきます。

会長 田中雅文

筑波大学名誉教授(元副学長・理事)である谷川彰英氏は、社会科学教育、生活科教育、総合的な学習の分野で、長く日本の教育界を牽引されている研究者です。柳田国男の教育思想研究で博士号(教育学)を取得されています。二〇〇九年に筑波大学を退かれると同時にノンフィクション作家に転身された谷川彰英氏は、学問の枠を超えた自由な発想で多くの地名に関する本を出版し、NHKの「日本人のおなまえっ!」などの番組にも出演されています。

「遊び」は単なる遊びではないと説く谷川彰英氏によると、「だるまさんが転んだ」は数の感覚を育む「遊び」だそうです。本講演では、柳田国男の言説をまじえながら、「遊びの中の教育的意義」についてお話しいただきます。

柳田国男の思想に惹かれ、全国の地名を歩く谷川彰英氏の姿から、講演会を企画した学生たちは、「平成の伊能忠敬」をイメージしました。皆さま、どうぞ奮ってご参加ください。

日時 平成三十年十月十一日(木)
 十六時〇〇分〜十八時〇〇分(予定)
場所 九十年館B棟十五番教室(西生田キャンパス)
テーマ 必見!平成の伊能忠敬に聞く
 ―遊びの中の教育的意義―
講師 谷川彰英(筑波大学名誉教授)
司会 齋藤慶子(教育学科准教授)

申し込み 準備の都合上、なるべく同封のハガキで十月五日(金)までにお申し込みください。
 (申し込みなしでの当日参加も歓迎です。)

株式会社バンダイは、玩具や模型のメーカーとして広く知られています。代表的なものに、『たまごっち』や、『機動戦士ガンダム』シリーズの模型があります。本講演では、おもちゃのユニバーサルデザインについての出前授業を実際に体験する子に加え、企業の社会的責任(CSR)として行われている子どもたちの活動支援についてお話しいただきます。また、『たまごっち』の企画開発にも携わった岩村剛氏によるおもちゃ開発の裏側や秘話などのお話も伺います。人びとの夢を育み、感動を体感できる商品をつくり続けてきた誰もが知る「おもちゃ会社」の方による授業体験や講演を通して、教育や社会への関心をより一層深めていきましょう。皆さま、どうぞ奮ってご参加ください。

日時 平成三十年十月二十日(土)
 十三時〇〇分〜十五時〇〇分
場所 九十年館A棟第一会議室(西生田キャンパス)
テーマ 想像は創造以上だ!
 ↳出前授業とユニバーサルデザインでつくる未来
講師 岩村剛氏(株式会社バンダイ)
司会 藤田武志(教育学科教授・学科長)
持ち物 筆記用具、はさみ、のり、色鉛筆(くーびー可)
 (会場でも若干の準備はございますが、数に限りがあるため、各自ご持参下さい)

準備の都合上、なるべく同封のハガキで十月五日(金)までにお申し込みください。
 (申し込みなしでの当日参加も歓迎です。)

提言

教育におけるパラダイムシフトと専門性

教育学科助教 大谷 洋貴

算数・数学の授業といえば、まず教師から方法が説明され、例題を解き、演習する、というなじみのある授業がイメージされるかもしれない。問題の答えは予め存在しており、そこに早く正確にたどり着こうとする算数・数学の授業イメージもあるかもしれない。こうした、いわゆる「伝統的」な算数・数学の授業は、今もなお我が国では至る所で見られるだろうし、世界的にもそうであろう。

しかし近年、この算数・数学の授業観を根本から変えようとする動きがある。フランスの数学教授学者であるシュバルールは、伝統的な授業を「記念碑主義パラダイム」にあると指摘する。記念碑主義では、子どもは記念碑に例えられる数学的知識を二つ訪ね、鑑賞する。教師の役割はツアーガイドである。こうして学ばれる知識にどれほどの存在理由があるのか。シュバルールは代わりに「世界探究パラダイム」を掲げる。そこでは問いが学習の中心である。子どもはメディアを駆使しながら問いの答えを探究し、その過程で必要になった知識を必要だけ学び、そして新たな問いを生み出した探究を続ける。問いや答えが予め存在するわけではない。数学的知識は探究の対象であり、世界を読み解くツールでもある。教師に連れて行ってもらった記念碑は決してない。

教育は流行に鈍感だから、過去と未来とで全く異なるわけではない。しかし、異ならないように見えても、新陳代謝のように、着実に変化し続けている。その未来の一端が先述のパラダイムシフトであろう。いささかラディカルな世界探究パラダイムが簡単に実現するとは思えないが、遠くない未来の教室風景を予言している気がしてならない。

我々はしばしば自分の経験に基づいて子どもに接する。誰もが教育を経験しているから、誰もがそれに口を出すことができる。だが、いくら経験を紐解いても、世界探究のような未来の授業の姿は出てこない。過去の経験だけでは未来の教育を十分に語れない。教育を研究することの難しさと面白さ、教育研究の専門性の一面はここにあるのだろうと感じている。

会長就任のご挨拶

教育学科教授 田中雅文



この度、吉崎静夫先生の後を受けて、教育学科の会の会長を務めることになりました。

私は、民間のシンクタンクで九年間、文部科学省の国立教育研究所(現在の国立教育政策研究所)で八年間仕事をした後、一九九七年から日本女子大学教育学科でお世話になっており、社会教育主事の資格課程を担当しています。主な専門分野は生涯学習論、社会教育学です。なかでも、成人の学習とまちづくり活動やボランティア活動との関係に関心をもっています。市民としても雑木林の保全活動を中心に地域活動を実践しており、学ぶことと市民活動の相乗効果を実感しているところです。

さて、教育学科の会が開催している「学縁の集い」と「ホームカミングデー」には毎年多くの学生が参加し、卒業生や各界の専門家の講演からたくさんのご

を学んでいます。いずれも大学の授業では得られない学びの機会を提供するものであり、これらを通して学生たちは社会人としての生活や心構え、あるいは学際的・実践的な内容を習得しています。近年では学生委員の数を大幅に増やしました。学生委員にとっては、上記の行事の企画・運営や理事会への出席そのものが、貴重な体験学習となっています。

このように、教育学科の会の活動や行事は在学生に対してさまざまな学びの場を提供しています。その主体となっていたいただいているのは、理事を中心とする卒業生の皆様です。これからも学生が大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

教育学科の会 大会報告

第57回教育学科の会が、5月26日(土)西生田キャンパスにおいて行われました。

〈第一部・総会〉

総会は、会長挨拶から始められ、議長の選出、平成29年度事業報告及び各部報告、決算報告が行われました。平成29年度の主な事業として、第56回大会が行われ、総会の後2名の講師による「学縁の集い」が開催され、卒業生を囲み学生の熱心な質疑が行われたこと、10月22日(土)にホームカミングデーが開催され、久保田雅人氏により、「ドキドキ！つ

くってまなぼー！久保田雅人氏に聞く造形教育」の実技と講演があったことが報告されました。また、12月2日(土)に懇話会が開催され、元千葉県知事の堂本暁子氏により、「私の歩いてきた道」85年の「人生」の講演があり、ジャーナリストとして、政治家として、女性の抱える問題、男女共同参画への取り組み、知事として行政主導から県民主導の政策づくりに挑戦したこと等幅広いお話を伺いました。3月には紀要『人間研究』第54号が発行され、会報『葦』第71号が9月に、第72号が3月に発行されました。

その他、役員の選出、平成30年度事業計画、それに伴う予算案が可決されました。また、退任役員への謝辞、挨拶が行われました。

【浦野敬子(25回生)】

〈第二部・学縁の集い〉

今回の「学縁の集い」は卒業生の方を二名お招きし、ご講演をいただきました。それぞれの職場で活躍されている先輩方から、学生時代の過ごし方、就職に向けてのお話、学生へのアドバイスなどをご講演内容について、学生によるグループワークが行われ、質問したいことが話し合われました。質問を考えるだけでなくそれに答えていただくことで学生の考えや興味がより深まり、さらにグループワークが学生同士の活発な交流を促し、大変有意義な会となりました。

〈川井和子さん(24回生)〉

川井さんは、愛知学院大学大学院商学研究科教授、税理士、東京簡易裁判所民事調停委員と多岐にわたって活躍されています。

学生時代は、映画「レ・ミゼラブル」の影響からフランス語と社会科学に関心を持ち、勉学に励んでいたそうです。課外活動としては、シャyson研究会に所属し、力を入れていたとお話してくださいました。仲間と協力し助け合いながら学生時代を楽しく過ごされたことは、今でも思い出に残っているそうです。

大学卒業後は三菱銀行に就職され、人事部にて社内報の編集を担当されていたそうです。家業の経理事務の経験を通して複式簿記に興味を持たれ、ご友人の多くが税理士試験に挑戦されていたことから、税理士試験に挑戦されました。税理士に登録されてから、再び転職を迎えた川井さんは、税理士という仕事への関心の傍ら、「法とは何か」という疑問を持た



左：川井和子さん 右：井上由梨さん

れるようになりませう。そして、その真理を探究するために愛知学院大学大学院へ入学し、主に基礎法学や法哲学について学ばれた経験を熟をもってお話ししてくださいませう。また、この時に大学の非常勤講師を引き受けられたことが、現在の大学院博士課程担当教員としてのお仕事にもつながっているとお話ししていただきませう。

現在のお仕事のやりがいには、学生が成長していく姿を見ることができたり、や、研究会を通じて様々な人との出会いがあること、とおっしゃっていました。また、出会った人々と共に研究をするこゝとで、学問が進展し学びが深まることも、現在のお仕事のやりがいであると感じているそうです。

私たち学生に向けては、バस्तールの「学問に国境なく、学者に祖国あり」という言葉などを引用しながら、学問への向き合い方などをアドバイスしていただきました。学生時代から様々なことに興味や疑問をお持ちになり、真理を探究し続けている川井さんの姿が、とても印象的でした。

〈井上由梨さん(67回生)〉

井上さんは、現在教員三年目で、相模原市の公立小学校に勤めていらっしゃいます。ご自身が小学生のときに好きだった塾の先生が小学校の先生になったことが、井上さんも小学校の先生を目指すきっかけになったそうです。

学生時代は、幼稚園と小学校の教員免

許の取得を目指し、授業、サークル活動、アルバイトで忙しい日々を過ごされてきたそうです。忙しい中でも、二年生から四年生まで続けた小学校でのボランティア活動が、教員採用試験にも卒業論文にも役立つとお話ししてくださいませう。教員採用試験の対策についても自身の体験談を交えながら教えてくださいませう。大学の教員採用試験対策講座や教職支援室の先生方に支えられて勉強を進めたこと、ゼミ生や先生の話が役立つこと、面接では素直に思っていることを伝えるとよいことなどを、教えていただきました。

小学校の教員となつてからは、子どもたち一人ひとりの個性に合わせ、根気強く寄り添うことを大切にしながら過ごされていくそうです。実際の学校の現場では、一日として同じ日はなく、様々な出来事が起こる中で子どもたちと一緒に成長できるとおっしゃっていました。教師が頑張った分だけ子どもも反応してくれるので、その成長の姿を見ることがやりがいにもなっているそうです。また、若手だからこそ苦勞や、心がけていることについても教えていただきました。事務のお仕事も多いため、子どもが好きだからという理由だけでは教師という仕事は務まらず、覚悟が必要であることを強調されていました。一人でやろうとせず学年の先生方と協力すること、保護者の方には一生懸命に、丁寧に対応することなど、経験に基づく貴重なお話を伺うことができました。

学生へのアドバイスとして、気遣いや挨拶など、社会人として大切なことは、教師という仕事も他の職業も同じように求められるので、学生のうちにしっかりと身につけるとよいこと、そして、今やりたいことをやるのが大切だとお話ししてくださいませう。

〈感想〉

卒業されて間もない方と卒業されてから暫く経たれている方、お二人のお話を聴くことができ、私たち学生にとって大変学びの多いものとなりました。お二人は、それぞれ別の職業で活躍されていますが、学生や依頼人、小学生といっ



グループワークの様子

た「人」を相手とし、その相手と真摯に向き合う姿は共通しており、教育学科の学生がこれからの目標や将来像を持つにあたって大いに参考になるお話を聴くことができたと思います。また、どのような職業を目指すにしても、大学で学んだことや友達との関わりは、就職活動や就職後の仕事においても役立つことが分かりました。今後の学生生活をより充実させ多くのことを学んでいかなければという、私たち学生の意欲を掻き立てるお話しでした。お忙しいなか素晴らしいお話しをしていただき、ありがとうございます。

【教育学科3年 羽生田 莉央】

お知らせ

教育学科ではツイッターとインスタグラムで情報を発信しています。リアルタイムの教育学科を是非ご覧ください。



Instagram



Twitter

新任の先生紹介



大谷 洋貴 先生

◆簡単に経歴をお願いします。

新潟県出身。新潟大学を卒業後、新潟大学大学院(数学教育専修)に進学しました。その後、附属新潟中学校の講師を経て、広島大学大学院(初等カリキュラム開発)に進学しました。二〇一八年三月に同大学院を修了し、博士(教育学)を取得しました。今年の四月に、日本女子大学に着任しました。

◆日本女子大学の学生の印象はいかがでしたか。

元気があるなと感じたのが第一印象です。まじめに授業に参加することもでき、優秀だなと感じています。

◆先生の趣味を教えてください。

現在は悲しいことに趣味といえる趣味はありません。学生時代はずっと剣道に打ち込んでいましたし、寝る間を惜しんで読書や麻雀に明け暮れることもありました。

◆最後に、学生に向けてのメッセージやアドバイスをよろしくお願いします。

とも含めていろんな経験を積むことは、学生時代にしかできないことだと思います。経験は宝です。今やりたいことを学生のうちに挑戦してほしいです。



五十嵐 敏文 先生

◆簡単に経歴をお願いします。

新潟県出身。東京学芸大学卒業後、東京都の公立小学校、東京学芸大学の附属小学校で教師をしてきました。東京学芸大学大学院には、教師の仕事しながら通いました。

◆日本女子大学の学生の印象はいかがでしたか。

優しくて素直な人が多い印象です。積極的に授業に参加してくれるので、とても嬉しく思っています。授業で配布した資料が余っていると、授業後に回収し持って来てくれる学生が何人もいます。皆

さんの姿や学習感想からたくさんの方の話を学ばせてもらっています。

◆先生の趣味を教えてください。

実家が自動車整備工場という環境が影響してか、小さな頃から機械が好きでした。子どもの頃はラジコンでよく遊びました。大学生になると一瞬を切り取ることができるカメラに興味がありました。写真というよりも、機械的な部分に魅力を感じてのことでした。写真研究部に入りましたが、美術科の学生が多くとても華やかな雰囲気につくりしたことを覚えています。暗室で薬品を使って写真を焼く作業もとても楽しかったです。

◆最後に、学生に向けてのメッセージやアドバイスをよろしくお願いします。

人との出会いによって人生は大きく変わっていきますので、一つ一つの出会いを大切にしてください。皆さん一人ひとりに、人生を変えるような出会いがあることを願っています。

【教育学科3年 関口 美花】



会員の広場

ハガキコーナー



◆生涯教育のボランティア活動や高齢者の方の支援活動を少しさせていただいております。常に成瀬仁蔵先生の教育を受けたことに誉をもって生きることができていることに感謝しております。

(17回生 東京都)

◆こんなに長くフルタイムで働き続けるとは、就職前、就職直後には思いもよらなかったことです。しかも仕事が楽しくて仕方ないのです。その時々のおいしさに働いた職場の方々、家族の支えに改めて感謝しています。(26回生 東京都)

◆教育学科が西生田の地にあるうちには非一度訪れたいと思いつつ、願いが叶いません。(29回生 長野県)

◆教員生活も11年目に入り、今は二人目の子どもの育休中です。母親になると、教員として分らなかったことが分かったり、保護者の視線で子どもと接することができたりします。大学での学びを生かして、これからは子育てに仕事に励みたいと思います。吉崎先生、吉崎ゼミのみんな、お元気ですか？久しぶりに会いたいですね！(57回生 岡さやか)

◆5年間働いた学校から異動する春。初めての異動に気持ちがあつたソワソワします。大学時代の友人からは入籍、結婚、妊娠と嬉しい便りが届く年でもあります。心機一転、また頑張りたいです。

(63回生 衛藤美幸)

【2018年度 教育学科の会】理事 (数字) は回生

【会長】	田中 雅文	【学生委員】	
【副会長】	浦野 敬子 (25) 大森 桃子 (26)	学部 1年	井形 桃子 薄田 紗矢香 柏木 佳苗 上山 柚果 小路 詩 永園 彩奈 宮部 紅音 和田 日菜子
【研究室委員会】	齋藤 慶子 大谷 洋貴	学部 2年	加藤 あおい 櫻井 悠夏 下田 朱莉 高尾 晴菜 高平 麻緒 古家 幸乃 松田 純奈
【回生委員会】	委員長 萩野 厚美 (25) 副委員長 藤田 良子 (25) 宇野 儀子 (25)	学部 3年	小澤 里佳子 木村 早紀子 島崎 郁美 鈴木 里奈 関口 美花 羽生田 莉央 藤本 笑里 松本 かの子 三木 咲慶 渡邊 亜美
【総務部】	部長 増山 在子 (27)	学部 4年	東 春花 上村 綾乃 黒川 麻美 榊 佑奈 鈴木 美奈 馬場 真歩 林辺 くるみ 平野 瞳 山口 紘佳 徳永 綾乃 片桐 芽吹
【会計部】	部長 菊地 康子 (26) 副部長 森岡 美千子 (26)	大学院	伴野 美緒
【会員部】	部長 松尾 里羽子 (31)	【監事】	古戸 のぶ子 (27) 片山 直美 (30)
【庶務部】	部長 杉山 京子 (27)		
【会報編集部】	部長 石井 美奈子 (38) 副部長 佐野 加奈子 (59)		
【文化部】	部長 中込 知野 (37) 副部長 赤塚 国子 (24)		

懇話会のお知らせ

障がい者が働くことについて
すべての人が働きやすい社会にするために

全日本特別支援教育連盟理事長として、教育・雇用・就労、福祉の連携による障がい者の社会参加支援をすすめていらっしゃる、松矢勝宏氏をお迎えします。

講師 松矢 勝宏氏
日時 2018年12月22日(土)
13時30分〜15時30分

会場 日本女子大学
目白キャンパス
百年館 102会議室

会費 無料
申し込み 同封のハガキまたは
直接会場へ
問い合わせ 中込 知野
(文化部・37回生)

☎080(3087)8363
nakagomechino@gmail.com



松矢勝宏氏
プロフィール

松矢勝宏(まつやかつひろ) 1940年9月、東京都生まれ。1971年東京教育大学大学院教育学研究科博士課程修了。東京学芸大学助教授、教授を経て、名誉教授。

目白大学人間学部教授・全日本特別支援教育研究連盟副理事長・日本知的障害福祉連盟理事・日本発達障害学会理事・厚生労働省・東京都障害者施策推進協議会等の各種委員、審議会委員等を歴任。文部科学省生涯学習政策局「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議」副座長。2007年10月より全日本特別支援教育研究連盟理事長。2004年よりNPO法人障害者就業生活支援開発センター Green Work 21理事長。2015年より社会福祉法人森の会理事長

『障がい者の仕事場を見に行く4 私たちのこと、もっと知ってほしいな』童心社、2017年 など著書多数。

日本女子大学教育学科の会
平成29年度決算書(平成29年5月1日～平成30年4月30日)
及び平成30年度予算書

収入の部

項目	平成29年度			平成30年度
	予算	決算	差額	予算(案)
入会金	100,000	97,000	3,000	100,000
会費	2,500,000	2,276,898	223,102	2,300,000
人間研究 助成金(*1)	200,000	255,420	-55,420	300,000
受取利息	100	5	95	10
その他(繰越金)	323,400	0	323,400	460,990
収入の部合計	3,123,500	2,629,323	494,177	3,181,000

(*1) 学科刊行物印刷費など

支出の部

項目	平成29年度			平成30年度
	予算	決算	差額	予算(案)
奨励金	60,000	90,000	-30,000	60,000
印刷費				
人間研究(550部)	300,000	510,840	-210,840	300,000
会報	400,000	505,535	-105,535	500,000
名簿	10,000	0	10,000	10,000
名簿データ管理料	130,000	129,886	314	130,000
行事運営費				
大会	140,000	0	140,000	140,000
懇話会	140,000	130,995	9,005	140,000
ホームカミングデー	60,000	71,908	-11,908	60,000
理事会等運営費(会議費)	80,000	52,732	27,268	80,000
活動費				
研究室委員会	220,000	183,524	36,476	220,000
学生委員会	50,000	55,566	-5,566	50,000
回生委員会	150,000	104,878	45,322	140,000
総務部	54,000	37,262	16,738	54,000
会計部	30,000	35,482	-5,482	35,000
会員部	14,500	11,757	2,743	13,000
庶務部	40,000	41,939	-1,939	54,000
文化部	20,000	15,080	4,920	20,000
会報編集部	100,000	77,863	22,137	100,000
研究誌編集部	40,000	0	40,000	40,000
研究室経費	40,000	15,433	24,567	40,000
送料・通信費(会報発送委託費)	800,000	814,349	-14,349	800,000
事務・消耗品費(会報ハガキ印刷代含む)	30,000	77,303	-47,303	30,000
慶弔費	10,000	0	10,000	10,000
雑費(卒業生ボールペン代)	20,000	10,200	9,800	20,000
ホームページ(サイト保守・レンタルサーバー代)	65,000	63,402	1,598	65,000
桃井育英会(震災義援金)	20,000	20,000	0	20,000
会費促進費(ファイル代)	100,000	34,778	65,224	30,000
支出の部合計	3,123,500	3,090,310	33,190	3,161,000

平成29年度収支差額	-480,987
前年度からの繰越金	6,223,765
次年度への繰越金	5,762,778

上記のとおり報告いたします。

平成30年5月26日

教育学科の会 会長 吉崎静夫

会計 菊地康子

上記について慎重に監査した結果いずれも適正かつ妥当なものと認めます。

監事 古戸のぶ子

先輩にインタビュー



今回は、教育学科六三回生であり、新宿区の保育園で働いていらっしゃる、黒田未佳さんに、実際にお会いしてお話を伺いました。

黒田さんは、井上先生のゼミに所属し、幼稚園免許と社会教育主事、そして独学で保育士の資格を取得されました。また、卒業論文では、小学校の支援員や、保育園でのボランティアの経験を基に、予てから興味があった特別支援について執筆されました。学生時代から幼稚園や保育園という場で実践を積むことで、先生として働くイメージが出来、目標を持って勉学に励むことが出来たと仰っていました。

黒田さんは、今春、お子さんを出産され、現在育休中でいらっしやいます。



★保育士になろうと思ったきっかけはなんですか。

幼い頃から、幼稚園か保育園の先生になりたいと思っていましたが、保育士になろうと決意したのは、大学生のときでした。ボランティア先の保育園の子どもたちが、のびのびと過ごす姿や、園の温かい雰囲気、活き活きと働く保育士さんたちに出会い、保育士として働くことを目指すようになりました。

★保育士試験の勉強の仕方・対策を教えてください。

教育学科では、保育士の資格は取得できませんでした。そこで、大学二年生から通信で勉強を始め、三年生の時に資格を取得しました。公務員保育士の勉強は四年生になってから始め、目白キャンパスで行われた試験対策講座を受けたり、同職を目指す仲間とともに勉強したり、情報を共有し合ったり、同じ問題集を何度も解いたりして試験対策を行いました。

★仕事をやる上で大切にしていることはなんですか。

〇歳〜五歳までという、人間形成のうえで最も大切な時期だからこそ、子ども一人ひとりの発達に応じた支援を心がけています。また、職員間、保護者間

でも信頼関係が重要です。特に保護者の方には、ちょっとしたことで不安感を与えてしまうことがあるので、注意しています。

★出産をして、変わったことはありませんか。

これまで、「明るく笑顔で」を意識していましたが、子どもたちを預かり、保育していく責任を改めて感じ、信頼して大切な我が子を預けてくれる保護者の思いを、今まで以上に受け止め、一緒に子育てをしていきたいと思いました。また、今後は、働きながら子育てする大変さや、不安な気持ちを汲み取り、少しでも保護者が安心できるように、積極的にコミュニケーションをとっていききたいと思っています。

★子育てと仕事の両立について教えてください。

保育士は体力を使う仕事なので、今まで以上に大変になってくると思いますが、復帰後は、時短勤務制度を利用しながら、時間を大切に効率よく、職場でも、家庭でも、協力し合って、生活していきたいと思っています。今はまだ育休中なので、子どもにたくさん愛情をかけて、家庭での時間を一日一日楽しみながら、過ごしていきたいです。

★「先生」を目指す私たち、学生へメッセージをお願いします。

先生という仕事は、人と関わる仕事なので、その関わりの中で、常に何かを吸収し、自分自身を成長させていく

ことが大切です。自分の趣味、経験、その中で失敗したことさえも、すべて仕事に生きてきます。学生のうちに視野を広く持って、ぜひたくさんのご経験を積んで下さい。

★インタビューを終えて

今回の取材を通して、卒業後の自分の生き方について、改めて考えることが出来たように感じます。

今回取材をさせていただいた黒田さんは、にこやかに、優しく、ほんわかした雰囲気がある一方、目標をもってお仕事をされていて、自分の核となるものをもっているところが素敵だと思いました。四月にお子さんを出産されて、まだ日が浅く、お忙しい中、取材に快く応じて下さったことを心より感謝申し上げます。

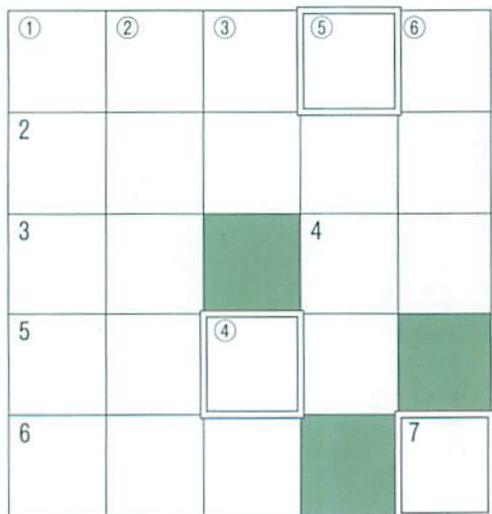
私も学生のうちに様々な経験をして、たくさん人と関わり、その中で、日々、人として成長していけるよう、頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

【学生委員3年 三木 咲慶】



クロスワードパズル

二重枠の文字を組み合わせてできるひらがな三文字の言葉は？



答え



<ヨコのカギ>

1. 桃太郎のお役目
2. いよいよ地球の温度が
3. 佐渡で繁殖に成功
4. 女性のこれは鋭い
5. テレビ、エアコン、扇風機にも
6. 平和への〇〇〇
7. 心配事があると痛みます

<タテのカギ>

- ①. 神社の入口にあります
- ②. どここのクラスにもいました
- ③. 〇〇ほど高いものはない
- ④. パソコン作業は肩にくる
- ⑤. 書類にはやはり必要です
- ⑥. あっという間に過ぎていく

<ヒント>

家庭は〇〇〇〇の場でありたいものです

- ◆解答を同封のハガキに書いて送ってください
正解者 10名に図書カードを贈呈します。
(正解者多数の場合は抽選)
- ◆前回の正解は<ハナミズキ>でした。
たくさんのご応募ありがとうございました。



締め切り
10月5日(金)
必着

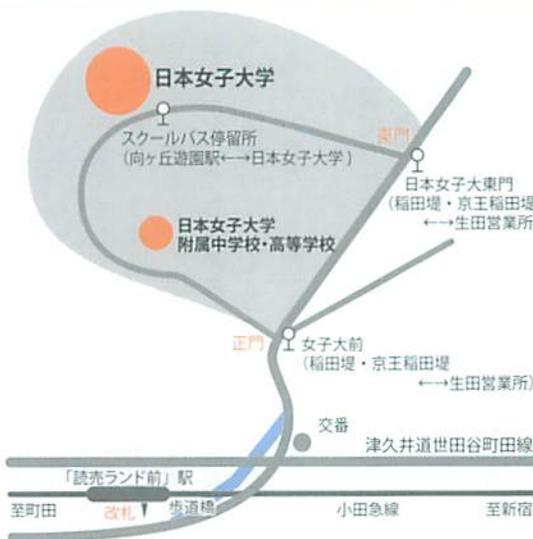


[当選者] (敬称略・数字は回生)

小出 とし子 (8) 津々良 明石 (12) 安田 純子 (15) 菅川 佐千子 (17) 米山 珠美 (29)
 冨家 章子 (35) 石原 理恵 (37) 大石 朋子 (37) 秋山 曜子 (43) 井上 由梨 (67)

「葦」今号編集時点で、スクールバスの日女祭特別ダイヤは決定していません。ご乗車になられる方は、「日本女子大学」のホームページから「交通アクセス」→「西生田キャンパス」→「バス停・時刻表」とすすんでご確認ください。(教育学科の会のホームページではありませんのでご注意ください。)

※卒業生の方は西生田キャンパス入構・スクールバス乗車に際して、身分確認用として、「葦」送付時の封筒をご持参ください。



交通のご案内

- ◆小田急線 読売ランド前駅下車
徒歩 15分
・新宿から急行 25分 (向ヶ丘遊園乗り換え)
・新宿から準急 30分
- ◆小田急線 向ヶ丘遊園駅下車
北口3番停留所よりスクールバス (所要時間約 15分・無料)
- 京王線
『京王稲田堤』駅下車/
小田急バス(生田営業所行) 約 12分/
日本女子大東門または女子大前下車
- JR 南武線
『稲田堤』駅下車/
小田急バス(生田営業所行) 約 12分/
日本女子大東門または女子大前下車

編集後記

★大学時代には学生委員として、卒業してからも読む度に教育学科を身近に感じられた「葦」の編集に携われるご縁に感謝です。

(佐野 加奈子 59回生)
★オープンキャンパスに行ってきました。とても盛況でした。成瀬住宅を見学し、歴史の重みを感じました。

(星野 ひろみ 37回生)
★乳幼児施設での仕事。会話の鋭さとできることの多さには驚き！刺激の差？ノンビリした幼児期を思い出す。

(内山 睦美 34回生)
★腰痛歴30年。そこで腰痛専門ウエブマガジン『腰痛ラボ』編集長始めました。

(齊藤 素子 34回生)
★今年の夏は、人生最高の暑さでした。蚊取り線香と扇風機でお昼寝した子供の頃が懐かしいです。

(佐藤 恭子 34回生)
★最近近しい人が相次いで病気になる何だか凹みがち。でも、職場で子供達といると救われる。天使の笑顔に日々感謝。

(妙圓 やよい 34回生)
★今年度から59回生の佐野さんが会報編集部に加わってくれました！フレッシュな風を吹き込んでくれると思います。「葦」が会員の皆さまにとって教育学科との懸け橋になりますように。

(石井 美奈子 38回生
会報編集部長)

年号表記の記載につきましては、原稿により、和暦と西暦があり、併用しています。